伊勢原市総合戦略会議（第５回）会議録

〔事務局〕　企画部経営企画課

〔開催日時〕平成２８年３月３０日（水）午後３時３０分～午後５時１０分

〔開催場所〕伊勢原市役所　３階　議会全員協議会室

〔出席した委員〕　１２名
　小　﨑　敏　男（座　長）
　魚　見　なつみ
　大　谷　健　治
　笠　原　　浩
　川　副　正　教
　熊　沢　　学
　西　郷　公　子
　篠　崎　文　一
　菅　谷　裕　子
　辻　　敦　史
　原　　昭　智
　引　田　道　人
〔欠席した委員〕　４名
　荒　木　淳　子
　小　薄　宏　三
　佐　藤　　清
　吉　池　沙　季

〔事務局〕　７名
　髙　山　松太郎（市長）
　宍　戸　晴　一（副市長）
　武　山　　哲　（副市長）
　山　口　清　治（企画部長）
　黒　石　正　幸（経営企画課長）
　熊　澤　信　一（経営企画課副主幹）
　飯　嶋　智　雄（経営企画課主事）

〔公開可否〕　公開

〔傍聴者数〕　２名

《議事の経過》
１．あいさつ
２．議　題
　（１）パブリックコメントにおける意見への対応について
　（２）人口ビジョン・総合戦略の策定について
３．その他

（事務局）
　皆さんこんにちは。ちょうど定刻となりました。
　定刻となりましたので、これより第５回伊勢原市総合戦略推進会議を開催させていただきます。会が円滑に進行できますよう、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。
　なお、本日の出席者でございますが、お手元の方に出席者名簿を配らせていただきました。４名の方が今日は欠席という連絡をいただいております。よろしくお願いいたします。
　総合戦略の推進会議の開催にあたりまして、本日は傍聴の方が２名いらっしゃいます。傍聴の方につきましては、お手元にございます「傍聴を希望される方へのお願い」という資料をお目通しいただいて、会が円滑に進行できるように、皆さんご協力をよろしくお願いいたします。
　それでは、お配りしてあります次第の順番に従いまして会を進めさせていただきます。まず会の開催にあたりまして、高山市長よりあいさつを申し上げます。よろしくお願いします。

１．あいさつ
（市長）
　皆さん、こんにちは。
　本日は年度末ということで、大変お忙しい中、こうしてお集まりいただきました。総合戦略の推進会議ということで、いつもご協力いただいておりますことを心から感謝申し上げます。
　この会議ではこれまで小﨑座長さん、荒木職務代理さんを中心に、委員の皆

さま方に４回に渡りまして大変な活発なご意見等をいただいているところでございます。

またご提案もいただきました。おかげさまで当市の「人口ビジョン」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定をすることができるわけでございます。

また先ほど、座長であります小﨑先生のゼミ、小﨑ゼミの生徒の皆さん方が、若い学生の視点で伊勢原の分析をしていただいたものをいただきました。本当にわたしどもはうれしく思っております。

委員の皆さま方にはそれぞれの立場で、大変お忙しい中、何度もこの推進会議にご出席をいただきました。心から皆さまには重ねて感謝とお礼を申し上げます。

総合戦略を策定すること、これも大事なことでありますけれども、さらにこれをどう具現化し実施していくかということに尽きるのだろうと思っております。皆さま方にご議論をいただいた人口減少も、地域経済の縮小の克服に向けました具体的な取り組みを、責任持って実現してまいりたいと考えております。よく言われます結婚・出産・育児、あるいは就労の場の確保等々、課題が山積をいたしているところでございますけれども、わたしども伊勢原市が持つ潜在的な資源、雇用にさらに磨きをかけて、そして選んでもらえるまちづくり、そうしたものを目指してまいりたいと考えているところでございます。今後も皆さま方にご指導いただくことが多いかと思っておりますけれども、どうぞご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

簡単ではありますけれども、わたくしのごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

（事務局）

それでは続きまして、座長より一言頂戴したいと思います。よろしくお願いします。

（座長）

皆さん、お忙しい中お集まりいただいてどうもありがとうございます。今日が第５回ということで、最終の報告ということになります。１年間に渡りましてどうもありがとうございました。

今日のところは、これから事務局の方から最終報告をいただくのですけれども、その後皆さまからいろいろな意見を頂戴して、実行の段階で少しでも盛り込めればいいなというふうに思っております。どうぞ今日はよろしくお願いいたします。

（事務局）
　ありがとうございました。なお、市長は公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。それでは、ここからの会の進行は座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

（座長）
　それでは早速ですが、次第に則りまして議題に入らせていただきます。議題の１番目の「パブリックコメントにおける意見への対応について」及び、２番目の「人口ビジョン・総合戦略の策定について」を、まとめて事務局より説明をお願いいたします。

（事務局）
―資料について説明―

（座長）
　今までのところでご意見のある方は。よろしいですか。それでは、皆さまのお手元の方に送られてきている資料に関して順番に、御意見・ご感想等をお願いできればと思います。

（委員）
　わたしが思っておりますのは、わたしは今、NPO で地方創生関係のこの会に近いかたちでやっておりまして、各県とか国、民間企業からの地方創生の話が、それからわたしは経営支援の仕事をしたり、それ以外の普通の仕事もやっておりますので、日本全国との自治体とか企業との関係で仕事をさせていただいている、その体系の中で、今回伊勢原市の仕事という関係から少し、感想を述べさせていただきたいと思います。
　人口ビジョンにつきましては、どこの自治体もそれを作成して、わたしも他の県とか市のものをいくつか見ました。大体みんな似たり寄ったりのことを書いているけれども、それはともかく力作で、いろんな分析をされたり、それから産業の特徴等も考えてよくできていると思います。
　それから、総合戦略が一番大事なところになっていると思うのですけれども、わたしが伊勢原市の広報を見たり、実際のイベントやこういう小冊子を見ても、市の方が大変労力されて非常にきめ細かく提供されたり、人を動かすようなことをされているので、素晴らしいことだと思っています。それは特に今、こういう関係の委員になったということで、特に見るようになったというのもあるのですけれども、やはり日頃大変なことをされていているということで、よく

大変やっているなというのが正直な感想でございます。

もう一つは総合戦略、これが大変興味があって面白いところであるのですけれども、これをわたしなりに理解というか評価させていただきますと、まず総合戦略を今の時期に予算を取ってやるというのは、危機感が国にも皆さんにもあるということで出てきたと思うので、これは、ぜひ概要版を見たら分かりやすく書いてあると思うのですけれども、こういうプロジェクトをやること自体、今までの延長では駄目だという意識が根底にあると思うのです。それから「人ごとじゃないよ」と、危機感や意識を変えなくては、全部メッセージで出てきていると思うのです。そういう意味では、将来のことを考えて今やらなければいけないという文脈で読んでいくわけですけれども、やはり「強み・魅力」ということでいろいろ分析されたり、SWOT で分析されたりしているので大変素晴らしいと思うのですけれども。例えばこの概要版の７ページを見て、「強み・魅力はここです」というのはそのとおりなのですけれども、この「強み・魅力」をさらに強くしていく。さらに魅力を高めていくということが、次の第２ステージに入ってくるということで、この「総合戦略」はそういう位置付けで、方向性とかやることとかいう特徴をきちっと捉えて、その次の段階のところをどうやってやるのかという、ここが一番大事なところだということだと思うのですけれども、それはやはり知恵と工夫なのです。知恵と工夫というのは、わたしも民間企業で常に言われたりしているのですけれども、知恵と工夫をどれだけ出すかというので、知恵と工夫がないとどうしてもマンネリになるし、過去の延長で形式的になることは明らかです。そこのところはぜひ知恵を結集すると。死ぬほど考えて、素晴らしいというか、ぶったまげるぐらいの知恵を出していかないと、いくら一生懸命考えていても従来の延長と全く変わらないと、そういう気が大変強くしているのです。

それから、やはりまんべんなくやらざるを得ないという行政のいろんな立場があると思うのですけれども、やはり特色のあるビジネスモデルを作るとか、サプライチェーン、それから大変な交通の要衝ができているわけですけれども、それを利用してどうやって物を運ぶのか、コストを短縮するのか、人を集めるのか、ものを集めるのか、企業を集めるのか、情報を集めるのかという、その次のところをどういうふうに工夫されているかというのを、これから見させていただきたいと思っております。

そういうところで、大変よくまとまった基本目標等もありますけれども、少し辛口かもしれませんけれども、あまり抽象的でまんべんなく言っている主な取り組みというのは、資料の４の２３ページ辺りの、主な取り組みを見てもあまり新鮮味のあるようなことがないのです。中小企業の支援とか、商店街の活性化支援とか、創業支援とか書いてありますけれども、こういうのは言っても

言わなくても当然やらなければいけないことなので。それよりもむしろ「平成大山講プロジェクトの推進」という具体的な着眼点があるのですが、非常にいいところで、そういうのが発想の転換を促したり、裾野を広げていくことにもなりますので、ぜひ特徴があるというか、それを理解してほしいと思います。

最後になりますけれども、わたしが今やっていることの紹介になりますが、ここにも書いてありますけれども、経産省ではいろいろな活性化をするとき、介護・福祉の機器を作る会社は大企業じゃなくても中小企業でいいと。中小企業の介護・福祉分野を伸ばすために日本全国から選び出して、そこに重点的に支援するというプロジェクトがあるのです。そういうのもしっかりやっていって、それから県の産業振興財団がいろいろ動いていますので、それとも契約しながら、各県がみんな悩みを持っているわけですが、それを首都圏の販路拡大とか、産業振興財団との付き合いもたくさんありますので、そういう中からもいろんな知恵を還元させていただきたい。あるいは、とある生命保険会社の話ですが、生命保険会社は単に保険をやるだけではなくて、生命保険会社が契約している会社、中小企業の業績を上げるため、生命保険会社は残念ながら経営ノウハウがないので、我々の NPO と契約して企業とのマッチングということで、強力に動いています。ですからそれは、ある意味でヒントという意味で、これからいい戦略ができたわけですけれども、それをどうやってつなげていくのかというところは、民間とか保険、金融、それから経験者とのつながりとか、そういうところを複合的に多角的に考えられてやると大変おもしろくなって、この戦略がさらに生きてくるのではないかというふうに思います。わたしはそういうところの感想です。

どうも大変いろいろお世話になって、素晴らしい会議に参画させていただいてありがとうございます。

（委員）

今、委員の感想としてお話しされたのですが、最初に参加したときにお話しさせていただいたのですが、我々は金融機関の人間ですので、総合戦略の「まち・ひと・しごと」というようなかたちになってくるのですが、「しごと」があって、そこに「ひと」が集まって、そのあと「まち」が大きく発展していくというような捉え方を今でもしているのです。

まず、この SWOT 分析等の方に書かれているようなことがひとつひとつ実行されれば、それなりに人口も維持でき、将来的に「しごと」の方もうまくいくのではないかというような感想を持ちました。その中で民間の我々ができることを、やはりきちっと行政の方と協力しながらやっていくことが大切ではないかというような感想を持ち、また、うちの会社の中でもすでに人口、それから

まちおこしに近いようなかたちの、例えば大学生さんたちにいろいろなアンケートを取ったり、うちの会社の方を見ていただいたり、お取引先の企業とのマッチングとかというようなものを、今手がけていますので、少しでも地域の活性化につながればというような活動を行っている次第です。ともかく、できることからひとつひとつやっていかないといけないな、という感想を持ちました。

（委員）

１年前この委員会に参加させていただきまして、ちょうどわたし自身も子育てのまっただ中で、子どもが待機児童になったりして、なかなかこの委員会に出席できなくなることもあったのですけれども、やはり農業のことであるとか、子育てとか、まさに自分が今直面していることで、今後、全体はまだ分からないですけれど、より良い戦略にしていければいいなと思っています。

農業のことについて言えば、農地を拡大したいと思って周りを回ったりしたのですけれども、なかなか空いている所があっても借りられないとかそういうことがたくさんありまして、行政の方もいろいろと農地を集積していただいたりしてはいただいているのですが、まだまだそこに入っていない本当にいい農地を農家の方が持っているけれど、出していけない、というところがありまして、そういったところも、これからもっと行政の方とも連携させていただいて、いろいろやっていきたいと思っています。

ブランドのことについても、具体的なところまでは踏み込んでいないかなとは思うのですけれども、上から「こういうものを作りなさい」ということではなくて、農家自身でもうちょっと連携をして、ブランドを下から上げていくブランド化を意識して、これからやっていきたいと思っています。以上です。

どうもありがとうございました。

（委員）

まず総合戦略につきましては、非常に難しくて大変な業務を、いろんな分析を踏まえてここまで成し遂げられた事務局の皆さま方のご苦労は、わたしも似たようなことはよくやっているのですけれども、非常に大変だったかと思いますけれども、わたし自身勉強させていただきました。ありがとうございました。

特に KPI の設定は、わたしも当初お話しをさせていただいたところでもありますし、パブリックコメントに出ているように難しかったと思います。その中でもかなり練りに練ってというか、考えられた KPI の設定をされていたということなので、こちらは非常に参考になりました。わたし自身もこういった業務に携わることができまして、わたし自身の知識の成長につながったものでありましたので、そういう機会をいただきましてありがとうございました。

今回、こちらの会に参加するにあたって、第１回にわたしは何を話したかなと思って、そのとき自分で話したことを、メモだったり思い出したりしたのですけれども、今もそうなのですが、わたしは会社で大山・伊勢原の観光のプロモーションの担当をしておりますので、どうしても観光の側面からのお話となってしまうかもしれないというお話をしまして、やっぱり観光の側面のお話しかできなかったことを、自分の見識の浅さと視野の狭さが露呈してしまったかたちとなってしまい申し訳なかったと思いつつも、ただ、資料の４の１ページの「基本的な考え方」に、新たな観光の場面づくりの広報になったと。私はそちらの委員もやっていますので、そういったことを書いていただいたり、２２ページ以降の「基本目標」の方にも「観光」というところを書いていただきまして、伊勢原市ならではの特色が出た総合戦略になったのではないかと思っております。

何をお話ししたかを思い出している中で、この４回、５回出て思った大きなところが、わたし自身一番「大山エリア、伊勢原エリアは他のエリアで得ることができないものがたくさんあるはずです」というようなお話をさせていただいたと思います。その思いがこの会を通してより強くなったというのが感想でございます。もちろん観光の資源があるというのはわたしも分かっていたのですけれども、よくよくお話を聞いたり自分で調べたりすると、観光以外の資源もしっかりあるのではないかと思っています。

例えば、わたしは子どもがいないのでその辺は明るくはないのですけれども、子育て環境のお話、さっき待機児童のお話があって、どうかとは思うのですけれども、例えば９時まで預かってくれる民間の施設があったりというのもありますし、医療体制もおそらく、ベッドの数もそうですし、大きな病院の周りには絶対小さい病院が大体どこにもあると思うのですけれども、非常に充実しているなというのもあります。

わたしは月に２回も３回もこちらに来ることがあるので、商店街などをうろうろしているのですけれども、やはり小さいながらも元気な商店もたくさんありますし、もちろん大企業さんもたくさんあるということで、ひょっとすると中にいる方は「ない、ない」とおっしゃるかもしれませんが、よそ者のわたしからすると「しっかりあるじゃん」「やっぱりあるよね」というのが、今回の総合戦略の会議に参加させていただいて強く感じたところであります。

ただ、今お話ししたのは、実は点になってしまっているのかなと。子育てのお話も、ひょっとすると行政も、保育園などから民間の方にお子さんをうまくシフトするようなかたちで、点をしっかり線として結んでいって、それを面として広げていくことによって、今ある資源が生きてくるのではないかと思っています。それは総合戦略の中やいろいろな業務の中で繰り広げていければと思

っております。
　今お話しした資源なのですけれども、やはり一番感じたのは、ここにいらっしゃる方を代表としまして、熱い人がたくさんいると思いました。まず行政の皆さんの熱意、何とかしなければいけないというところ、わたしは観光のところが多いのですけれども、観光以外の方ともお付き合いもさせていただいて、非常に熱意のある方が、仕事だからじゃなくて、「伊勢原を何とかしないといけない」という思いで取り組んでいるという方もいらっしゃいます。ここにお集まりの方もそうなのですけれども、伊勢原を本当に真剣に考えている住民の方がいらしたり、産業の方がいらしたり、学生がいらしたりということで、人という資源もちゃんとあるなというのを今回強く思いました。
　その中でわたしはよそ者だと思っています。会社としては絡んでいますけれども住民ではないですし、ここで仕事をしているわけでもないので。ただ、よそ者だからこそ、きっと今お話ししたところが分かったのかなというのがあるので、ぜひそういった視点を今後自分自身も生かしていきたいと思いますし、言い方としてはあれかもしれませんが、その後の視点というのもぜひ取り入れていただければと思っております。
　当社としても、やはり役割を果たしていかなければいけないかなと思っておりまして、先ほど事務局からご紹介いただきましたが、クリアファイルと、今回伊勢原に特急停車とかダイヤ改正の概要がありますので。普段はやっぱりわたしは点だなという反省があるのですけれども、当社としてはやはり点である交通事業というところで、皆さんに快適なサービスを提供したり、もちろん全体というわけにはいかないのですけれども、より快適により速く移動していただくという点をご提供することで、あとはいかにお使いいただいている地元の皆さんに線にしていただいて、皆さんの力で面にしていただくのが、これから全員でやっていかなければいけないことなのかと思いました。
　長々とした感想になってしまったのですが、非常に貴重な機会を与えていただきまして、ありがとうございました。以上でございます。

（委員）
　最初に、去年の６月からこういった戦略推進会議に第１回から多方面の皆さま方の貴重なご意見を伺う場に参加させていただいたことに対して本当に感謝申し上げます。
　一番最初から会議に出て何度かお話をしていると思うのですけれども、やはりわたしは地元の金融機関の代表というようなかたちで参加させていただいて、先ほど委員がおっしゃられていましたけれども、やはり、こちらにいつも書かれていますけれども、「まち・ひと・しごと」じゃなくて、金融機関としては「し

ごと」があって「ひと」が集まって「まち」ができる、そういう順番なのかなというふうに常々考えておりますし、会議の席でも、「しごと」を地元に集めるために何ができるのか、それが、やはり一番の金融機関の務めではないかと考えながら、ほぼ１年会議に参加させていただいていました。

なかなかうまくすぐに結び付くようなことはできませんでしたけれども、着実に少しずつ、手前どもの支店のお取引先の皆さまに集まっていただいて、農業とか食料品とか、いろいろなかたちの事業者さまのご意見、お話を伺いながら、伊勢原のブランドができないかなと考えるような場を作るような、そんな会議を立ち上げて、今活動している次第です。すぐには結び付くことはできないかもしれませんが、地元金融機関としてそういったお客さまと一緒に、伊勢原に何ができるのかということを日々考えながら活動していきたいと思っております。

最後に、今回は伊勢原支店の従業員の名刺の横に、シティプロモーションのロゴを一緒に掲載させていただくということで、いろいろと経営企画課の黒石課長に、「伊勢原市の考えている現状と未来を目指す姿」という出前講座といった授業も、行員にご説明いただくような場を設けさせていただきました。４月１日からこの名刺で、これは伊勢原支店だけなのですが、従業員は手前どものお客さまのお邪魔に上がる際は、名刺を配りながらシティプロモーションのこのロゴが皆さんの目に留まると思います。そのときには伊勢原の行政の皆さまと同じ目線ではないですけれども、伊勢原市の素晴らしいところとか、そういったものを、まず地元の皆さまに周知徹底できるような、そういった活動を続けたいというふうに思っております。

雑ぱくな意見、感想になりましたが、まだこれからがスタートだと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。わたしからは以上です。

（委員）

私も途中いろいろ言って、ある意味でわたしの発言が若干良くなかったこともあったなと思いましたが、このまとめを拝見して、それを起こしていただいて、よくまとまったかたちになったという感想を持ちました。

いくつか申し上げると、パブリックコメントで、やはり B（意見を踏まえ、案の修正を検討するもの）というのが少ないのが残念だなと思っていまして、A（意見の趣旨が案で示す方向と同様であるもの）と C（意見として承ったもの）ばかりという感じなのが。つまり今、知恵のある方は自分たちの意見が言いっ放しではなく、「何か変えてもらえるかもしれない」というのを非常に強く求めているというふうに思っておりまして、何か少しでもいいので盛り込んでいくというような、まあ意見がそもそもこなかったということだと思うのですけれ

ども、そういう部分があると、一緒に変えていけるという部分につながると思っています。

もう一つ申し上げたいのは、そういう意味で全体が KPI などに非常に取り組んでおられて、さっき皆さんがおっしゃられていたようにこれを１個ずつやっていけば良い市になっていくと思うのですけれども、先ほどの意見が反映されるということとも係るのですけれども、さっき市長も「これから具現化が重要」というふうにおっしゃっていたのですが、やはり目に見える何かかたちが。行政の場合、全体の公平性とか、連携にしても、ここと連携しなければいけないとかいう数字建てが非常に重要だとは思うのですけれども、取りあえず先行モデル的に目に見えるとか、かたちになるとか、先ほど農業との関係のお話にもありましたが、１個でも何かかたちになって、みんなでやったんだというのを見せるということが。見ればそこに参加してくる人も増えてくるといったことになると思うので、その辺を一番重視して具現化していっていただきたいと思います。

その中でどういうふうに具体化していくのか分からないのですけれども、言わせていただいた中では、やはり待機児童のことをさっき委員が言われてドキッとしたのですけれども、やはり待機児童にならないようにというようなことも含めて、子育てと健康寿命みたいなことが書いてありますけれども、やはり一番この中で、「ポテンシャルってすごいな」と思うのは、お医者さんの数がやっぱり一番目立つと思います。やはり小さな病院から大学病院まで揃って、お医者さんがたくさんいらっしゃるというのを活かして、子育てとか健康寿命とか高齢の福祉につなげていくようなモデル的なことができると、それが一つのきっかけになって、面的になれば、より良い、さらに素敵な市になるのではないかと思いました。

もう一つ少し弱いなと思っているのは、わたし自身もあまり言わなかったところもありますけれども、雇用創出というところが少し弱いのかもしれないなと思っています。ただ、観光とか農業とかをやっていけば雇用創出になるのか、今後の工業団地の配置みたいなことをされていくので、そういう製造業を重視していけば、東名道を含めてうまくいくのか、その辺がもうひと息、具現化というときに勘案されるといいのではないかと思います。

わたしは寒川町でも地方創生の委員をやらせていただいていて、そこの町長さんもすごく熱心に「寒川町、チャンス」と熱く語られていて、時代が変わったなあと、正直言って思っております。今はチャンスなのでいろいろ巻き込んで、地域が活性しないと企業も生き残れないものですから、一緒に頑張って、何と言っても大山のミシュラン２つ星は、当社は２０年ぐらい前から一面で本当にきれいな写真を撮っておりますので、それも皆さん購入されるきっかけに

はなっていると自負しておりますので、今後ともよろしくお願いします。以上です。

（委員）
わたしからは３つほど発言させていただきます。
まず１つは４の方の１８ページですが、指標２、指標３と書いていまして、製造業と観光は金額規模でいうと１００倍の違いがあるのをちょっとびっくりしているのですけれども、これが注力も１００：１にならないようにお願いしたいということと、この「観光消費額」という言葉をどう捉えるかという、これはわたしの意見ですけれども、今、わたしは駅の北口で仕事をさせてもらっていて、商店街などでいろいろ活動して、補助金の申請書などを取ってきたりしていたので調べたのですが、今、駅の北口は空き店舗がほぼ無くなりまして、逆に飲食店が「出店をしたいのだけれど、どこかいい場所がないかな」というぐらいのレベルになっています。何が伸びているかというと、やはり観光客なのです。先日も別の会議で、「今、非常に観光シーズンに観光客が多くなってうれしい。どんどん進めてほしい」などと飲食店さんからのご意見もありました。おもしろかったのが「１年で一番忙しいのが実は大山マラソンの日だ」という飲食店もあったのです。大山マラソンというのはスポーツイベントなのですけれども、伊勢原に来てお金を落とす人というのは、全てが全て観光客ではないと思うのです。当然会社の出張で来る人もいれば、登山とかハイキング、スポーツを目的に来ている人、そして観光を目的に来ている人、いろいろいると思うのですけれども、ぜひ数字の捉え方を間違えないようにしてほしいというのは、わたしからの意見とさせてもらいます。
そしてもう一つは、３６ページの下の方にオリンピックの話が出てきて、今年リオオリンピックがあるので、これが始まるころには東京オリンピックの話題もそろそろ盛り上がってくる時期ではないかと思うのですけれども、この「県立伊勢原射撃場を活用した」という言葉が入っていますが、これはあくまでも県立だから県のことだと思っています。ですから、例えばまだ決まっていないと思うのですけれども、野球・ソフトボールがもし決まれば、もしかしたら決勝トーナメントは横浜スタジアムじゃないか、というような声が新聞に出ていました。伊勢原市立の立派な野球場があるので、射撃とか特色のあるスポーツだけではなくて、メジャーなスポーツなどもいいチャンスじゃないかと。そうなったときに、以前「予告して入れよう」という話もありましたけれども、ただ競技を、「キャンプを誘致しよう」とかいう話だけで進めていくのではなくて、例えば伊勢原球場を上から見ていただくと分かるのですけれども、近隣にもう２つ、実は野球場があるのです。成城学園のグラウンドと専修大学のグラウン

ドもあったりして。わたしは日本大学というところに通っていたのですけれども、セミナーハウスが、実は長野オリンピックのときに、「これはオリンピックのために使われる時期もあったので、そのときに整備し直したんだよ」などという話もございました。ぜひ、市内の民間が持っている設備はどういった設備があるのかというのをもう一回検討してもらって、一つの伊勢原球場があるというだけで誘致するのではなくて、「それをカバーする施設がこれだけありますよ」とぜひ予告していってもらって。当然来たときには周辺に観光施設もあって、キャンプのみならず、応援に来る人も楽しめる設備もある。そして何よりもやはり道路基盤、あの近所に伊勢原インターができて、東京のメイン会場との行き来も非常にスムーズにいく。まして山の中にあるので警備も非常にしやすいとか、もしかしたら今まで伊勢原のマイナスだった部分が、すごくプラスに働く部分というのも非常にあるのではないかと思いますので、ぜひそこは予告しておいてもらって、面でそういった誘致にお取り組みいただきたいと思っています。

最後なのですけれども、これからもこの地方創生を進めていく上で、民間が活力を生まないとできていけない部分だと思っています。少し戻るのですけれども、やはり伊勢原は外来客が増えてもお金を落とす仕組みがまだ不十分ではないか、受け皿の整備が不十分なのではないかと。点としてはピンポイントにお金が落ちてくるかもしれませんが、市内全体としてお金が落ちているのか。受け皿としての整備がまだ不十分なのではないかというお話もよく聞いたりします。去年の１１月ぐらいに、この地方創生の枠組みの中で、日本版 DMO（Destination Management Organization）、要するに Destination「行き先」というのでしょうか、目的地のマネジメントをする、そういった機能的なものが観光庁の方でスタートしたら、ぜひ伊勢原でも将来的にはそういった仕組み、機能を考えてもらって、まち全体で稼ぐという仕掛けもゆくゆくはやっていただきたいと思っています。

推進体制、少しマイナス的な見方になってしまうかもしれないのですが、よくお役所は「これは民間がやっていることだから、わたしたちには関係がない」と言うときがあるのです。例えば小田急線が、今回、伊勢原をロマンスカーの停車駅にしてくれて、これは民間のことかもしれませんが、市を挙げて盛り上げている部分もあります。やはりわたしたちは駅の周辺にいると、例えば東急が撤退する。「あれは民間でやっていることだから市はあまり関知しません」。ロマンスカーが来る、小田急が来る。「民間だけれど喜ばしい話だから、市を挙げて盛り上げていこう」。やはり民間がやっていることでも、どこか市の都合で使い分けてしまっている部分もあるのではないかという気はします。やはりそこら辺が市民の不満につながらないように、やはりこの民間の活力がなければ

地方創生を進めていけないと思いますので、ぜひその辺は考えていただきたいと思います。以上です。

（委員）

皆さん、本当に「総合戦略」を作り上げていただいて、ご苦労さまでした。大変苦労されたと思います。いろいろと皆さんから出ていますけれども、これをどうやって実現していくかというのが、これからスタートだと思います。先ほどの待機児童の話や、それぞれの年代とかそれぞれの立場で、ここにいようかどうしようか決断する場合が沢山あります。この間、学生の方が就職するときどうしようとか、子どもがいるからどうしようとか。それぞれのことでいろいろなことを考えていくと、まさに「まんべんなく」という話がありましたが、やはりそこだけでなくてやらざるを得ない、それがベースなのだろうと思います。そこに加えて特徴、ユニークなものを付けていくかだとは思いますけれど、基本的にわたしは、いろいろな会社で、最初に「いろいろな競争がありますよ」という話をしました。今回も人口ビジョンが作られて、国の方からいろいろな話が出て、全ての市町村がこれを作っているということであります。すべての市がそれを全部実現していただいて、人口が減らずに、というのが一番いいことなのですが、現実はそうはいかないというときに、やはり他のところにも勝負して勝たなければいけないところも出てくるのだろうと思います。そこをどうやっていくかというと、例えばわたしは企業ですから、企業誘致などをされるには企業誘致のメリットを、「どこがいいのかな」といろいろ考えながらいきますので、そういう意味でもできるだけ誘致していただいて財政基盤をしっかりとしておかないと、やはり「よその市と比べてどうなのかな」という話が出てくるのだと思いますので、そこをしっかりやっていかなければいけないだろうと思います。

また、競争だけではなくて、やはりそれぞれの市町村に特色があります。先ほど観光の話がいろいろありましたけれども。やはり周りの市町村とどう連携していくかということが、非常に重要なことなのだろうなと思います。そこを、それぞれいろいろなことをやられていて、わたしは厚木の生まれなものですから厚木の方も見たりもしたのですけれども。それぞれの特徴をどう生かしていって、地区としてどう盛り上げていくのかというところを、連携を図りながらやらなければいけないなと思っています。そこのところをどういう連携を取るのかというのがこれから大事だと思います。ぜひやっていただきたいと思います。以上です。ありがとうございました。

（委員）

昨年から皆さんと、こうやってディスカッションさせていただくことが、非常に自分にとっていい機会を与えていただき勉強の機会になりました。ありがとうございました。

今回読んでいて気になったことがあったので、一つ質問をさせていただきたいのですが、「伊勢原市人口ビジョン」という資料３の２６ページですが、（２）で「転入者・転出者に関するアンケート調査」というところがあります。この「①転入先・転出先として選んだ理由」という書き方なのですが、転入先として選んだ理由・転出先として選んだ理由というのは、これはどういう意味なのでしょうか。転入先と転出先が並列で書いてあるのですが、この辺のところは、その下の文章を読んでいても、同じような「職場・学校が近くにある」というような理由で転入先や転出先として選ばれているというような。ここは少し解説が必要なのではないのかと思いました。それから、このアンケートはどんなことを聞くためのアンケート用紙だったのかなと。アンケート用紙を見たいと思いました。実は聞き方一つによって答えは変わってきてしまうのだろうという気がするので、こういうアンケート結果からということであれば、この中に「アンケートとしてこういう紙面でアンケートを取りました」というようなことが入っていてもいいのではないかと感じました。もし僕が考えていることが正しいのであれば、転出先というのは、転出者というのは伊勢原よりもより職場、学校が近くにあるのだとか、親が近くに住んでいるとか、「伊勢原よりも」というような言葉が頭に付くのかと思うのです。できればやはりこれは、「伊勢原の方がいいんだ」という言葉にするためのアンケートというのを実施するのが一番いいのかと思っていますので、その辺も見えるといいかなと思いました。

わたしはやはり伊勢原に来られた方、外から来た方が喜んで帰っていただけるような環境というものを考えたいというふうに思います。公共の交通機関で来られる、自家用車で来られる、さまざまな場合があると思いますが、「本当に伊勢原に来て楽しかったね、良かったね、また来たいよね」と思わせるようなまちが、人口が増えてくるまちになるのではないのかと思います。どこかで一つ、枕詞ではないのですけれども、「本当に伊勢原に来て良かったね」ということが全ての事業に付くようなつくり方、そういったものを創造していくと、またいいのかなというふうに思いました。

もう一つは、本当に皆さんにお会いすることが勉強になるなと思っている中で、一つ残念だったのは、もっともっとディスカッションをしたいと、正直に言うと思いました。この人数でやると一回発言するとその回で終わってしまうので、本当は３分の１、４分の１のグループを何回かに分けてディスカッションをしながら、いろいろな人の意見を聞くというような会議のやり方をやっていただけると、参加する意義がもっと強まったというふうに正直に思っていま

す。ですから「やったよね」ではなくて、やった結果が何につながるかというような会議に、今後はもっともっとするべきではないかというふうに思います。以上です。

（委員）

よろしくお願いします。この会に全日出席はできなかったのですけれども、今日ご用意していただいたこの資料を見ながら、良く出来ているなというところが本当に率直な思いです。もう一方においては、今日の別冊資料にもありますとおり、いろいろな事業の関係で、当社では今、地方創生先行型事業をやらせていただいております。やはりこの会議の前に「いせはらシティセールス」という会議が持たれました。わたしもそこに参加をさせていただいて、やはり「伊勢原」というものの知名度を、とにかく外に「伊勢原」というものを売っていかなければいけない。人が集まらない、金が集まらない、何も集まらないというようなところがあって、そのような話も「シティセールス」の中でもありました。

やはり産学連携ということで、大学さんと連携を取りながらやっと起こした事業を、具体的にこの地方創生事業の中で今回立ち上げることができました。これも、今、伊勢原で、ブランドを認知していただいて、みんなに知ってもらって、それが伊勢原の一つのシンボルマークになって、立ち上がって、外へ向けていってくれれば、地域の農業の発展に少しは寄与できるのかなというところがありましてやった事業です。まだ始まったばかりで、これからいろいろなところへ出していかなくてはいけないし、若い担い手の方の理解もこれから得ていかなくてはいけないのです。そしてやはり、やっていかなければ何も始まらないということなのです。

ですから本日ここにあるいろいろな資料、アンケートの回答結果、結局これらのものを実体としてどのように反映させるか。やはり短期的な視点では絶対に実は結ばないと思うのです。どうしても長期に渡ってくじけず努力を続けるという、これがまずないと、今回の資料が、意義があるものに昇華させるというような部分が厳しいのかなと、農業というふうなものを伊勢原市に一つ大きな起爆剤として持ってくるには、どういうふうにしていくのがいいのかなとずっと考えながら、皆さんのお話を聞いていました。どうも大変ありがとうございました。勉強させていただきました。

（委員）

最初、皆さんがすごく社会的地位のある方で、わたしは本当に一般市民で、専業主婦で、まず引け目から会議に入って。でも一緒に入っていくと、「でも市

民って一番大事だな」という思いで、難しいことは言えないのだけれども、自分なりに頑張って参加させていただいたつもりではあります。

知識も教養も大してないのであれだったのですけれど、皆さんの素晴らしい意見をいただいて。わたしは伊勢原が大好きです。これからも伊勢原にずっと住み続けて、このまちを愛していきたいと思うので、市役所の皆さん、すごくいろいろなお仕事で大変だろうと思いますけれど、いいまちを作ってくださいという思いです。以上です。

（座長）

どうもありがとうございました。それではわたしの方からテクニカルな点のところで少し。

まず資料の３ですが、１０ページのところです。図の７のところの「合計特殊出生率」なのですけれども、これは非常に悩ましいのでが、報告書を誰が読むかよく分かりませんので、基本的には図の縦軸の「合計特殊出生率」というのは、通常は単位を付けないのです。頭の概念的には 1.6 人とか 1.5 人なのですけれども、多分政府の報告書とかを見ると分かると思いますが、本文中には付いていません。1.6 人。本文の中に、例えば「そこのところには 1.43 となっています」とか、「人」などは入っていません。専門家の間では基本的には単位は付けないのです。これは非常に悩ましくて、実は「合計特殊出生率」というぐらいですから、本当は「率」なのです。だけれども単位は「人」になっているのです。だから、非常にこれは悩ましいところで。それで、これを５歳階級で年齢別でやっていくと、その階級別で足し合わせても「合計特殊出生率」にならないのです。これもなかなか厄介な問題で、これは専門家の間でも非常に厄介な問題です。こういう図がもう一箇所、資料４かどこかにあったのではないかと思うので、「合計特殊出生率」のところの図に関しては、分かりやすさから言えば「人」を付けたほうがいいのですけれども、基本的には外したほうがいいと思います。

それからもう一点、先ほども少し話をしたのですけれど、資料の３の２１ページのところを見ると、今後１０年間で伊勢原の人口が大体どれぐらい減るかというと、これを見ると、大体マイナス 1.1%人口が減ってくるのです。理論的に考えると、人口が減った分だけ生産性を上げないと、今から１０年後に関してどの企業でも、平均値でも生産性を 1.1%上げない限り今の所得を維持できないということになります。ですから、そういうことをまず頭に入れておかないといけないと思うのです。つまり人口が減ってきたときに、何でカバーするのかというと、生産性を上げることが非常に重要なのだということです。それと、そこのところ、特に３０代のところを見ますと、大山のところは 30.3%減るの

ですけれども、これはパーセントに直しているので、絶対数そのものは少ないので、気にはしなければいけないのでしょうけれども大きなインパクトはないのです。大きなところのものは伊勢原地区、それから成瀬地区です。そういったようなところは子育てに関して結構手厚いような施策を打ってあげないと、ここの人たちが流出してしまうと、人口がますます維持できなくなるという恐れがあるということです。

全体的な話をすると、「人口ビジョン」と「総合戦略」とをなぜ分けているのかというと、基本的にはこの「総合戦略」を作るところで最も大事なのは「人口ビジョン」なのです。普通は逆だと思うのですけれども、「総合戦略」というふうに考えているかもしれませんが、実は重要なのは「これから人口が減ってきますよ」というところなのです。そのところの中身は少子化なのです。少子化であり高齢化なのです。そこのところをまずもって押さえておかないと変な政策立案になってしまう可能性があるので、例えば少子化で子育ての問題。それから高齢化では医療費の高騰、こういったようなものが出てきます。例えば観光で言うならば、なぜ観光なのか。これも人口が減っているからです。人口が減っているから交流人口を入れよう。そうすることで消費も喚起できるといったようなことです。それから先ほども企業の合併の話が出てきました。これも実は人口が減っているから、今までの規模が維持できなくなっているのです。ですから人口が減るということは、非常に重要な結構怖い話なのです。もっと言うならば市民の生活に直結します。例えば水道料が上がったり、どこかの施設の料金が上がったりといったようなかたちで、市民の生活に直結するというかたちになって出てくるのです。

先ほど話を聞いていて、資料４のところで、伊勢原市の「まち・ひと・しごと創生」というのは、「やはりしごとが最初だよね」というところの意見がありましたけれども、これをやはり考えると、多分立場によって違うのだろうなと。これを作るのは基本的には市役所なり行政が多分中心になっているから、「まち」というのが最初に来ているのです。だから同じようなものを見ても、立場が違うと言葉の順番まで変わってくるのだというようなことを感じました。それから、雇用の創出のところが少しありましたけれども、伊勢原の場合は雇用の創出が弱いという意見がありました。これは多分、伊勢原の場合は、企業を誘致して、企業を誘致することによってそこで働く場が出てきますから、そこでいわゆる雇用創出というものが生まれるということが一つなのだろうと思います。わたしが少し感じたのは、市の人たちというのは、市役所というとどんな仕事なのかなというと、やはり企業とか労働者のマッチングをする役目が非常に重要なのだというふうに思います。例えばここに皆さんが集まっていますけれども、民間の人がたくさんいます。基本的に考えると、これを最初に言い出した

のは、多分市役所でも何でもないです。実は内閣府が「産官連携でやってくださいよ」というかたちで言い出したのです。これは意味があって、わたしもそうですけれども、皆さんが参加することによって多分伊勢原のことをすごく考えるようになって、それで意識が変わってきた。そこがすごく重要なのだろうというふうにわたしは感じています。

基本的にはいろいろな課題がたくさんあるのです。これは企業にとっては実は需要なのです。需要というのはデマンド、つまり収益源となるところのものだというふうにして捉えないと、今我々が提示されているところの課題が、実は、これは企業にとってビジネスチャンスだというふうに捉えた方がいいだろうと。その課題を克服することによって、収益を挙げていく。そうすることによって、その企業が社会貢献できるわけです。それで収益を挙げるのです。そういうことを気付かせるために、この会議が実はあったのではないかなというふうにわたしは勝手に思っています。市の方は多分、先ほど意見がありましたけれども、住民の人たちの意見をまず敏感に取り入れて、それがまた企業にとっての、先ほどの言う需要なのです。課題に答えるための需要であったりするはずです。今言ったように人口減少が起きています。今、実際に人が足りません。有効求人倍率は、パートを含めると１を超えています。1.2 ぐらいです。この間のニュースでは、２月は東京都が 1.9 ぐらい、２倍近く出てきています。つまり、もう人口減少を我々は体験しているわけです。これから多分、労働力不足を補うためには AI、人工知能とか、IoT とか、イノベーションとか、そういったようなものをやりながら、先ほど言った生産性を高めていくことによって、なんらかの工夫が必要であるというふうに思うのです。あるところによると、例えばデジタル IQ、デジタルを非常にやっているところの企業は、後進的な企業より収益が２倍近くあるというようなかたちで、これからこういった IT とか AI とか、そういったようなものを使いながらイノベーションを起こして生産性を高めていくしか、多分、生き残れる道はないだろうというふうに思うのです。

これから２０２５年にかけて、これからは高齢化がますます重要になってきます。つまり、「ケア」というのが一つのキーワードになってきているのです。実は企業であれ金融機関であれ、これが一つの問題を解く鍵になっていくのだと。病院も今までは高度な技術をもって難易度の高い病気を治すというのが使命だったのですけれども、これからは「癒す」それから「支える」といったようにケアの仕方が変わってくる、これが高齢化の時代だろうと思うのです。それから２０２５年ぐらいになると、いわゆる後期高齢者になって、ここのところの人口がこれから爆発的に、２０４０年で９５歳以上の人が４倍近くになりますから、そういったところの課題を、まず市がこれから少しずつ取り組んでいかなければいけない課題なのかというふうに考えます。

もう一点大事なのは、人口が流出するということ自体は、非常に市にとっては危機的な状態なのですけれども、労働者にとってはそうでもないのです。ここが悩ましいところなのです。どういうことかというと、伊勢原市に仕事がなくても、どこか違う市に行けば仕事があれば、これは労働モビリティを動かした方が実は効率的なのです。ですからこうなってくると、市だけではなくて県との連携、国との連携といったようなものもまた必要になってくることは間違いありません。市と市の連携とか、県と市、あるいは国との連携といったようなことも必要になってくるだろうと思います。それから、もし労働で言うならば、ハローワークが平塚の方にありますが、本当は市役所の中にハローワークがあって、伊勢原市の住民がどれくらい失業しているのか、どういう職業を求めているのかというのをきちっと把握されて、それから政策立案できるのが最もいいのですけれども、これは国の管轄ですからどうにもならないのですけれども。こういったようなところも当然改善していかなければいけないだろうと思います。ですからそこのところは単発的に、例えばアンケートを取ってある程度把握するというのも、今、現に市ができる仕事の一つだろうと思います。

取りとめのない話をしましたけれども、わたしの方からは以上です。１年間、いろいろと司会もうまくいかずに、皆さんにご迷惑をお掛けしましたけれども、本当にありがとうございました。以上のところで、もし市のほうで何かコメントがあればお願いしたいです。

（事務局）

さまざまな意見をいただきましてありがとうございます。この会議が始まる前に、総合戦略を策定する中で、国としては「産・官・学・金・労・言、また市民も取り込んで対応しなさい」というような指導がありました。今までは、どうしても市レベルですと「産官学」という言葉はよく使うのですけれども、「金労言」というのはなかなかそこまで言葉がなくて、金融機関、また「労」であれば労働団体、「言」であれば新聞社さん、そういった方も取り込んで、また、市民についても公募で委員として組織されていただきました。また、市民公募も何人かいらっしゃる中で、非常にいろいろな民間経験をお持ちの方、また子育て中の主婦の方を代表として選出させていただきました。そういった中で、１６名の委員さんを選んで、非常に幅広い意見をいただけたのかなと思っております。先ほど「点を線にして、そして面にすることが大事だ」というふうな意見もいただきました。また、その他委員の皆さまからも、戦略をどういうふうに具現化していくか、どうやってつなげていくのかという意見をいただき、非常に市としても重要な課題であると思っております。また一方で、今回こういったいろいろな方から意見をいただいて、市としても当然そこに連携の場面

を作っていくということも大事であると思っています。また、先ほど「市民の意見をどう吸い上げていくか、そこが大事なのです。そういったものがなければ、勝手に行政がやっているのではないかということで終わってしまう」というような厳しい意見もいただきました。そういった視点は常に持っている必要があると思っております。市が持ついろいろなポテンシャルを活かしながら、また次の段階にいかなくてはいけないと考えております。

もう一つ最後に、座長には、人口減少して少子高齢化の中でどういった大切な視点でこれから進めていかなければいけないということも教えていただきまして、最後に締めていただきまして誠にありがとうございます。非常にいろいろな意見で、こういった総合戦略、人口ビジョンができましたことを、本当にありがたく思っております。これからもどうぞよろしくお願いしたいと思います。

（座長）

どうもありがとうございました。それでは、続いて「その他」の方に移りたいと思います。事務局の方から何かございますか。

（事務局）

―資料について説明―

（座長）

どうもありがとうございました。今の説明に関して何か質問があれば。

（委員）

今のお話で一つ気になるのが、やはりキーワードとして「人の育成」というのが少し弱いと感じられます。具体的に言うとボランティアガイドとか、何を作るとか、都市化するとか、自然が大好きな子どももこの環境、いっぱい歩いているところに森があるのに、例えば自然塾とか体験とか、その辺の強化、やはり人も財産なんです。通信のインフラを作っているのですけれども、ともかくいっぱい作って、それは大人の世界で、実はそのうち消えてしまうのですよ。やはり大事なのは人間がつくった子どもであり、実際それはすごく時間が掛かるけど、常にそういうところはお願いしたいなと。出前授業であるとか、あるいは伊勢原検定であるとか、検定なんてそんなにお金はかからないですから。子どももみんな小学生が、伊勢原について知っていると、自然を知ってると、文化遺産を知っていると、農産物を知っていると、そういう体制があるのだといったら、絶対子どもも勉強しますよ。思いつきかもしれないけれどそういう

ものは必要だと思います。以上です。

（座長）
貴重なご意見どうもありがとうございます。

（委員）
すみません。今説明があったのですけど、この表ですが、これを当てはめると、「27 補正加速化交付金」というころまでが現状決まっていて、今回わたしたちがこういった会議をさせてもらって、これが反映されていくのはこの「28 新型交付金」という部分になるという解釈でいいのでしょうか。

（事務局）
ここにつきましては、「27 補正加速化交付金」で Wi-Fi の環境などに取り組みます。先ほど説明したケータリングカーだとか、あるいはプロモーションブックの作成などは「26 補正の基礎交付金」で行っております。「28 年度の新型交付金」につきましては、これはまた来年度に国から提示されますので、そこで申請をしていくというかたちになりますので、市としても、どういったものを申請するかということを考えてまいります。

（座長）
よろしいですか。他には。それでは無いようなので、これで本日の予定されている議事は全て終了いたします。事務局の方から何かございますでしょうか。

（事務局）
それでは、大変お疲れ様でございました。総合戦略推進会議、伊勢原市としても、これまで、例えば将来を見通しながら何か計画を作るとかということは、当然総合計画をはじめ、いくつかの取組みというのはあるわけですが、今回、例えば国、それから都道府県、全国の市町村が一斉に、ある意味で似た状況に入った少子高齢化社会をどういうふうに乗り切っていくのだという視点でもって一斉に今回取り組んだという、こういう進め方をしたのは実は初めてのことであります。当然市役所だけでは出尽くしているという前提でございますので、非常に幅広い見識をお持ちの皆さま方にご参加をいただいて、戦略を練ってきたということでございます。おかげさまでこういうかたちでまとまったということを、まずは御礼申し上げたいと思います。先ほど申しあげましたように、国の戦略、都道府県、それから市町村の戦略が集まりましたので、ある意味、先ほども出ましたけれども、双方共に連携をして話し合いながら、より効果的

な施策、事業というのを思いつかなければいけないというのが一つ前提としてございます。

もう一つ、それだけ出揃ってきておりますので、今回伊勢原市からすると、この時代、これから先の時代に勝ち残っていかなければいけないというところもございますので、今回練っていただいた、ご意見をいただいたこの戦略に沿って具体的な取り組みというものを、市が主体性を持って取り組んでいかなければいけないというふうに思っております。本当に貴重なご意見を頂戴いたしましてありがとうございました。

（事務局）

皆さま、本当に１年間貴重なご意見を幅広い視点から賜りましてありがとうございました。わたしが一番最初に出たときに持った感想として、もっと市役所の幹部職員をはじめいろいろな職員をここに陪席させて、皆さま方のご意見を直に聞く機会をもっと作りたいなと思ったのですが、なかなかうまくいきませんでしたが、ここでの貴重なご意見、市民の皆さんの感覚、それぞれのお立場の見識というものをしっかり伝えて、実際の計画の具現化に反映させていきたいと思っています。それから計画というのは、宿命的にそれができた途端に陳腐化の過程を歩み始めるということですので、その変化に対応した見直しを掛けながら、しっかりと実践をしてまいりたいと思っております。本当に１年間ありがとうございました。

（座長）

どうもありがとうございました。それでは、以上をもちまして本日の推進会議を終了したいと思います。今までどうも長い間ありがとうございました。御礼申し上げます。